

# 第5回 菱野団地再生計画推進協議会

## 議事要旨

日時：令和5年3月10日（金）15時30分～17時40分

場所：パーティセと4階 マルチメディアルーム

---

### 1. 開会

- あいさつ
- 委員紹介
- 資料確認

### 2. 令和4年度の活動状況等（資料1）

#### ○事務局からの資料説明

- ・資料1-1、資料1-2を用いて、令和4年度活動状況及び「未来の菱野団地をみんなで作る会（みんなの会）」の令和5年度予定について説明した。

#### ○質問・意見交換等

委員：我々エムトゥエムは、多文化共生という切り口で活動しているわけではないが、外国籍の人たちが困窮していた食糧支援を始めたことがきっかけで彼らと関係ができ、外国籍の人たちからの相談事が持ち込まれるようになった。今の時期だと確定申告の相談が多く、ネットでできると思うかもしれないが、ネット申請だと名前が10文字までしか入らないため、20文字以上の名前を持つ彼らにとってはネット申請が使えない。最近では家を買う人も多いが、住宅ローン控除があることを知らない人もいて一緒にパーティセとへ行き、手続きをしている。自分たちは特別な資格もないし外国語が話せるわけでもないが、8割9割の相談事が専門家でなくても対応できる内容である。是非ひしのミナクルでも日常に寄り添う取り組みができるとよいと思う。

それから30年以上日本に住んでいても日本語がわからない外国人が多く、自分たちは日本語教室をやったことはないがお試しに3月19日にやってみることになった。

また外国籍の人たちのどのくらいの人々がどんなことに困っているのかアンケート調査を取り始めている。こうしたこともみんなの会と一緒に取り組めるとよいと思う。

委員：エム・トゥ・エムさんの活動内容に驚いた。今伝えていただいたような取り組みが団地に住んでいる他の人たちにはなかなか伝わってこないなので、今後連携がうまく図れるとお互いの活動が充実するのではないかと思う。

会長：大学でも愛知工業大学や名城大学など色々な大学が菱野団地に関わっていて、ある先生は

来年度多文化共生について取り組みたいという話も聞いている。いろんな人たちで情報交換しながら進めていけるとよい。

### 3. 再生計画のプロジェクト進捗状況・予定（資料2）

#### ○事務局からの資料説明

- ・資料2を用いて、再生に向けた先行プロジェクトの取り組み状況及び、再生に向けた中・長期計画の取り組み予定について説明した。

#### ○質問・意見交換等（40分）

委員：住民バスの件だが、トヨタ自動車へ住民バスを自動化できないかという相談をしており、トヨタ自動車も興味をもっているようだった。しかしこの話は民間だけではできないものであり、市や県、国など色々なところが関連してくるものだが、菱野団地は自動運転がやりやすい場所だと思う。菱野団地で住民バスが自動化できたら注目を集めると思うので今後一緒に進めていけたらと思う。

次にセンター地区を活用した交流拠点ということだが、マツザカヤストアが撤退してからセンター地区が非常に寂しくなっている。中央広場を活性化させるためにはマツザカヤストア跡をいかに人が集う場所にするかが肝だと思う。自分個人でも公社と色々話をしている。あそこの場所をどう活用していくかを考えていきたい。

旧真貴幼稚園のお別れ会には1日で1000名の参加があった。約8割の参加者は団地外の方でSNSの告知によって興味をもったものである。団地の住民が興味のあることをどう発信していけるかがカギである。

原山は原山小学校の跡地についてどう活用していくか原山小学校跡地活用協議会を立ち上げ、来年度1年かけて方向性を見だしていく予定である。こちらも一緒になって考えていただきたい。

オブザーバー：マツザカヤストア跡地は空いた状態ではあるが、募集はかけており、興味をもつ事業者はいるが契約まで至らないのが実情である。

事務局：今委員がおっしゃっているマツザカヤストアは広場側のところだと思うが、そちらは耐震性がないため使用できないということではなかったか。

オブザーバー：広場側については耐震性がないため使用できない。募集をかけている場所はマツザカヤストアの一部分である。

委員：マツザカヤストア跡や大ホールが使えないということが活動のマイナスになっている。団地外から人を呼ぼうと思うと駐車場がネックになるが、あのホールを改築して立体駐車場にできないかと思う。中央広場を整備して人を呼び込むにしても駐車場ができないと難しいのではないかと思う。

委員：みんなの会のイベントでいつも問題になるのが駐車場である。団地の中は道路が広いので路上駐車する人が多いが、そうすると住民が警察を呼ぶので路上駐車対策が課題と感じている。

会長：私は名古屋大学のモビリティ社会研究所の客員教授を併任しており、名古屋大学は高蔵寺

ニュータウンで自動運転に取り組んでいるという知見もあるので何か力になれることがあったら言っていただきたい。

#### **4. 再生計画の目標達成状況（資料3）**

○事務局からの資料説明

- ・資料3を用いて、菱野団地再生計画に位置づけた成果指標・目標値の達成状況について説明した。

○質問・意見交換等

委員：県営住宅の入居者数のところで、県営住宅の建替えに関し、県の考え方は新しい住民を入れるつもりはなく、今の住民の住み替えのために行っていると聞いた。県営住宅の建物は新しく魅力的であり、住民を集めるチャンスだと思うので考え方を改めてほしい。

会長：県の方からコメントはいただけるか。

（→Wi-fi が不調であったため Zoom 参加の方に説明や質問を共有できていなかった。）

委員：人口減少に関連してだが菱野団地は約1割が外国人ということであるが10代の若者たちではその割合がもっと高いと思う。生まれてくる子どもたちも国籍が日本でもルーツが海外にある子を含めると非常に多いと思われる。そうした中で10年後20年後を考えると外国人を分けなくて考えていった方がいいと思う。外国人だから必要になる相談というのは少なく、言葉の部分や制度の違いでサポートは必要かもしれないが、外国人も包括して地域づくりに一緒に取り組んでいくことがとても大事だと思う。今既にあるブラジル人学校やNPO、地域の取り組みを活用したり仕組みを繋いでいく発想の転換が必要だと思う。他の地域で成功している事例でいいなもの大学生が自治会の役員になったり、外国人が棟長や館長になって高齢者の訪問をするなど日常の中に接点を持つことが大事だと思う。この場にも外国にルーツがある人が参加でき、発言できるようになるとよい。

会長：我々は年令別の人口構成に目を向けがちだが、外国人の年齢構成などもう少し細かい人口構成に目を向けることで10年後20年後を見据えながら計画を進められるとよいと思う。

委員：外国人のとか高齢者のと分けるのではなく、まず困ったことがあったらあそこに行くという場所が増えていったらよい。エム・トゥ・エムに来る相談も外国人の方に限らず、高齢者などさまざまである。団地の中でもいろんな相談できる場所があると思う。今の活動もペルーやブラジルの人たちと一緒に運営しており、それによってわかってきたことがある。一緒に取り組んでいくことが重要だと思う。

#### **5. 「菱野団地再生のあゆみと菱野団地の課題」（資料4）**

○石川会長からの資料説明

- ・資料4を用いて、菱野団地再生のあゆみと菱野団地の課題について説明がなされた。

#### **6. 「名城大学鈴木研究室研究成果報告**

**-中央広場整備アンケートと小学校統廃合に関する研究-**（資料5）

○鈴木委員からの資料説明

- ・資料5を用いて、中央広場整備アンケートと小学校統廃合に関する研究について説明がなされた。

## **7. 小学校の適正規模・適正配置について**

○事務局から説明

- ・昨年説明した内容は3つの小学校を現在の八幡小学校に統合し、特別支援学校についてはノーマライゼーションの考え方から光陵中学校に特別支援学校を全て併設するというものであった。しかし今年度決定した最終案は、八幡小への統合は変更ないが、特別支援学校は萩山小学校に開設するという内容になった。これは現在も光陵中学校に通わせている特別支援学校の保護者から登校時の安全に関し要望を受けて変更したものである。
- ・八幡小学校は新築ではなく長寿命化工事による改築で進め、現段階では令和8年の開校を目指す。特別支援学校については令和10年、光陵中学校に関しては令和12年を目指している。
- ・現段階としては子どもたちにどんな学校が望ましいかアンケートを取ったり、コンセプトをまとめているところである。

## **8. その他**

○八幡台県営住宅の建替えについて愛知県公営住宅課から説明

- ・来年度から八幡台4丁目の建て替えに着手する。現在は5階建て12棟440戸の住棟を建替え、エレベーター付き8階建て6棟384戸計画している。来年の秋頃から取り壊し予定であり、最初の2棟が令和8年頃、残りの6棟が令和23年頃の完成する予定である。解体工事着手前には地域で説明会を開催し、搬出ルートなどについて説明する。

委 員：建て替えにあたり、建て替え後の入居者の考え方について教えてほしい。

オブザーバー：今の入居者の再入居を優先しているが、住戸数が余るようであれば再募集をかけるという考え方で進めている。

委 員：今の入居者の世帯数と完成後の戸数の差について理解はしているか。

オブザーバー：理解している。

委 員：新たに入居者を募集するという考え方で計画を進めていただきたい。

委 員：小学校の改築について具体的にどんな形になるのかという点について保護者の意見を聞く場を設けることは可能か。

事務局：まずは子どもたちの教育を担う教職員とどういった機能が必要か話しているところである。併せて子どもたちにどういった学校になると楽しいかアンケートをとっている。その延長線で地域の方に声を聞くこともあるかもしれないが、まずは教職員、そして子どもたちの意見を聞いて子どもたち中心の魅力ある学校をつくっていきたい。

委 員：そういう形であればプランが固まってきたら地域にも共有していただきたい。

○今後の予定

- ・第6回協議会は、令和5年度末に開催する予定である。

以上